2017年11月22日富山県高岡市訪問

富山県はかつて大雪が降りかつ薬で有名な県である。田中先生が若い頃に日経新聞社に勤務した時に大変ご苦労された地域でもあり、以前から富山県を訪問したかった。

知り合いの方の案内で訪問することができた。当日は風もなく穏やかな天気だった。最初に向かったのは二上山万葉ラインである。見晴らしのよい高台を目指した。小矢部川蛇行が確認できる高台からの眺めは綺麗だ。

反対側から見る富山湾。ここは氷見市。

高岡市は鋳物の街。これも高岡名物だ。

雨晴海岸、義経に縁のある場所という。

バックに氷見市が見える。

海に浮かんだ松のある岩、後に見える雪の立山、確かにここは絶好の風景だ。

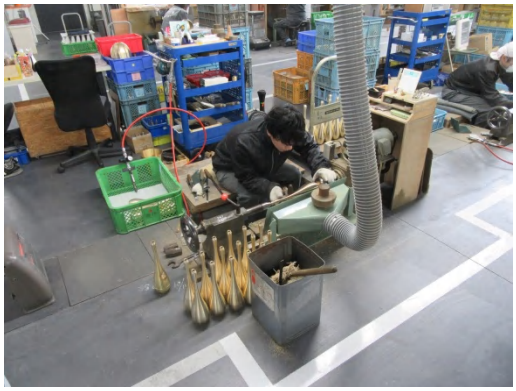
高岡市に来てすごく感じるのは奈良の文化の強い地域だと言う事。次に訪問した高岡市万葉歴史館でよく理解できた。平城京は奈良であり越中国府が富山。庭には鹿の人形。

知り合いの方の近所の勝興寺、立派なお寺。子供ころ境内で野球をしたそうである。

最後の訪問先は（株）能作。100 年続く鋳物会社、錫で作成した「曲がる食器」で 2007 年から大躍進。（株）能作の 4 代目の社長様は案内した方とは昔からの知り合いだという。すばらしいデザインの建物、カフェ、5S（清掃、整理等）の工場である。鋳物工場のイメージを一掃する。

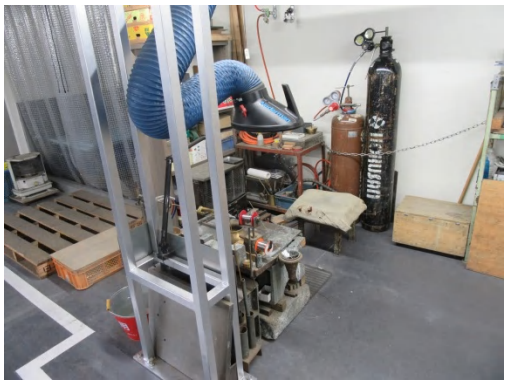
　最初に苦労話のビデオをみた。鋳物工場のイメージは 3K の代表である。工場見学に来た親子連れの「きちんと勉強しないとあの叔父さんのようになってしまう」という声が 4 代目の社長様に聞こえた。心に突き刺させる言葉だったと言う。そこで考えた。錫は 230℃で溶ける柔らかい金属。曲がってしまう弱点を逆利用した「曲がる食器」の発想である。

鋳物は型の周りに砂を入れて固める。その後、型を取り出した空間に金属を入れて固める。砂を取り除くと器ができる。上手にやらないと端が欠け、形が揃わない。真剣な職人の姿が印象深い。伝統の磨き職人の技を見た。



女性の働く姿、メガネで安全対策も万全

物を大切にする精神がすばらしい。



倹約の先生と言ったら小田原出身の二宮金次郎です。帰りに（株）能作の 2017 年 3 月までの工場を見に行った。ここは鋳物工場の団地のようだ。昔ながらの工業団地である。そうしましたら、二宮金次郎の銅像があった。これは珍しい。そう言えば、11 月 14 日の小田原訪問を思い出した。あの時は二宮金次郎の生誕地：小田原を友人の案内で訪問した。

終